



2007

The Natural Science Publishers' Association of Japan

No. 1

自然科学書協会会報

発行人・志村 幸雄

編集・広報委員会

発行・2007年1月15日

社団法人 自然科学書協会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-101 文化産業信用組合内 TEL03-3292-8281

URL : <http://www.nspa.or.jp/>

“ポスト創立60周年”の課題

—新年のご挨拶に代えて—

理事長 志村 幸雄

新年を迎えて心よりお慶び申し上げます。当協会にとって昨年は創立60周年に当たり、ささやかながら記念行事を催させていただきました。これもひとえに会員各社のご理解とご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

一口に「戦後60年」と申しますが、当協会の歴史が日本の戦後史とぴったり重なり合っていることは象徴的なことです。記念祝賀会の来賓ご挨拶の中で小峰書協理事長は、書協、雑協の歴史がまだ50年に過ぎないことを引き合いに出して「自然科学系出版社の先見性と60年の歴史を築き上げた営々たる努力に敬意を表したい」と述べられていました。戦火により灰燼と帰した状況の中で、理・工・医・農・家政学の専門書出版社を結集し、今日の発展の基盤を築かれた先輩達の取り組みには文字通り頭が下がる気持でいっぱいです。

周年行事の効用の1つは、これまでの活動を総括し、次なる発展への目標設定することにあります。幸い、一昨年7月の「文字・活字文化振興法」の成立を契機に文字・活字文化の関心が高まり、その環境整備も徐々に進みつつあります。良い読者を育てるために良い専門書を提供するのは当然の責務ですが、当協会としては同法10条が定める「学術的出版物の普及」を空念仏に終らせないためにも、「学術研究の成果についての出版の支援その他への必要な施策」を強く求めていきたいものです。

当協会60年の歴史を振り返りますと、出版

者の権利法制化問題、複写権の確立を図るための権利処理体制の整備に精力的に取り組んできました。今後の課題としては、出版者固有の権利としての著作隣接権の確立が目標となりましょう。また近年、著作権の制限規定拡大の動きが目立ちますが、今後は「拡大」に極力歯止めをかけるとともに、「縮小」を視野に入れた取り組みが必要かと思われます。

複写問題については、権利処理機構の強化、使用料改定問題が一大課題になっていますが、それを実現する手段として出版者著作権協議会の再編、管理機構の一本化問題が具体化しようとしています。当協会としては書協主導の対応を見守りながら、それを支援していく方針です。

さらに当協会の主要課題の1つとして再販制度維持問題がありますが、景品表示法やポイントカードに対する公取委の対応を見ても、「当分存置」がどこまで続くかは不透明です。察するに公取委側が、継続の要件として弾力運用、流通改善を強く要望していることを考えると、この種の問題になじみにくい専門書出版社がどう対応すべきかは議論を要します。

今年から来年へ向けての新たな課題として消費税率変更に伴う低減税率適用問題があります。具体的な日程が明らかでない以上、先走りするのは禁物ですが、外国の状況の調査や著作物に限定的に低減税率を適用した場合、会計処理上どんな問題が起こるか、などについては事前に検討していく考えです。

いずれにせよ、取り組むべき課題は山積しており、会員各位のお力添えがますます重要になっております。この1年もどうかよろしくお願い申し上げます。

書店から見た専門書の動き

— 出版・印刷人の集いに160名 —

第9回となる「出版・印刷人の集い」が、11月16日に出版クラブ会館で開催された。毎年、東京都印刷工業組合の出版メディア協議会が主催し、自然科学書協会と出版梓会が協賛して行われるが、今回は160名もの参加があり、専門書の出版社と印刷会社の交流の輪が広がった。例年どおり二部構成で行われ、最初に、自然科学書協会理事である丸善常務の松嶋徹氏が「書店から見た専門書の動き」と題して講演《要旨を後掲》。ひき続き、別間にて懇親会が開かれた。

懇親会の冒頭、出版メディア協議会会長の青木宏至氏が主催者として挨拶に立ち、「出版に関わる者が“読書”を率先してPRし、5年先、10年先を見据えて消費を呼び込んでいこう」と呼びかけた。このあと、梓会の大坪嘉春理事長、自然科学書協会の志村幸雄理事長のスピーチと続いた。志村理事長は、「最近、一般書と専門書との境界領域が狭くなっているように感じる。専門書が一般書の出版社から出るようになっていっている中で、われわれは得意技を生かしながら、より良い本を生産していかなければならない」と、一般書を意識した取り組みの必要性を述べた。

《松嶋徹氏の講演要旨》

出版と店舗の両方を担当しているが、今日は書店のオヤジとして、いささかの提言をしたい。専門書を購入する人は専門家ばかりと思いがちだが、最近に関連する業界の人も多い。例えば医学書であれば医者だけではなく、医者と取引のある銀行員、証券マン、また医療関係のSEなども購入している。それがどのくらいの割合なのかを調べたところ、2割ほどもあった。結構な割合であり、この現象を無視できない。

では、そうした専門家ではない顧客が何を目安に買っているのかを調べてみると、分かりやすいネーミングであることが見えてきた。また、売る立場からしても、分かりやすいタイトルの本のほうが扱いやすい。タイトルなどの見せ方を工夫すれば、専門書でももっと広範な読者に販売できるチャンスがあると感じている。

加えて言うと、版元は、もっとデータ活用



熱意を込めて
語る松嶋氏

による販促活動を行えばよいのではないか。書店では当たり前のようにやっていることだが、出版社ではまだまだのように思われる。丸善では、POSデータを公開している。こういったデータを、書店と版元がそれぞれの立場から分析していけば、シナジー効果はより高まるはずだ。

(緑書房・植田 直厚)

創立60周年記念祝賀会開催される

当協会創立60周年記念祝賀会が去る11月8日、日本出版クラブ会館で開催され、書協、雑協、出版協会、会員会社の代表者など関係者115名が参加した。志村理事長から「専門書の新しい時代を切り開いていきたい」との挨拶があり、小峰紀雄書協理事長、文部科学省の森見憲学術機関課長らから自然科学書出版へ期待する来賓祝辞があった。さらに、協会の発展に尽くした平成18年度功労者表彰も行われ、表彰者を代表して朝倉邦造氏が感謝の言葉を述べた。表彰者は、朝倉邦造(朝倉書店)、今井康之(元・岩波書店)、長 祥隆(技報堂出版)、金原秀雄(元・金原出版)、牛来辰巳(コロナ社)、佐藤政次(オーム社)、志村幸雄(工業調査会)、杉本幹夫(元・日刊工業新聞社)、深山恒雄(元・丸善)、増田 誠(元・日刊工業新聞社)、森北 肇(森北出版)の11名。

祝賀の宴は山崎厚男取協会長の乾杯の発声でスタートし、旧交を暖める楽しい時間がもたれた。本郷専務理事の一本締めでお開きとなったが、当日のスナップ写真を4、5頁に紹介する。

なお、記念祝賀会は以下の理事を中心にした実行委員会で準備が進められた。志村幸雄(工業調査会:実行委員長)、本郷允彦(南江堂:同副委員長)、牛来辰巳(コロナ社:式典小委員会委員長)、山本 格(培風館:記念史小委員会委員長)、朝倉邦造(朝倉書店)、金原 優(医学書院)、宮部信明(岩波書店)、佐藤政次(オーム社)、曾根良介(化学同人)、南條光章(共立出版)、長 祥隆(技報堂出版)、筑紫恒男(建帛社)、飯塚尚彦(産業図書)、後藤 武(彰国社)、山口雅己(東京大学出版会)、平田 直(中山書店)、松嶋 徹(丸善)、及川 清(養賢堂)

年末会員集會に105名が参加

実感のない「いざなぎ超え景気」といわれる中で、当協会恒例の年末会員集會が去る12月6日(水)18時より東京會館(千代田区)11階ゴールドルームで開催された。会員社代表と各専門委員会委員を合わせた47社88名に、取次・関連業界の方々17名、総勢105名が参加した。

開會にあたり志村幸雄理事長は「専門書の世界は依然と厳しく、出版不況から脱却できないでいる。そんな中で、協会は複写権の権利問題、消費税アップ後の低減税率適用問題、社団法人化への対応などの問題が山積しているが、それらに地道に対応していきたい」と挨拶した。

来賓挨拶に立った風間賢一郎(株)トーハン副社長は「1月～11月の出版業界は書籍が+1.0%、雑誌が-4.5%、全体で-2.2%と依然として厳しい。それでも、このところ大型店の出店が続いており、それらの書店では専門書に力を入れているので、科学立国日本を支えるためにも専門書の出版はぜひ続けて欲しい。また、読者のためにも再販制度維持の声を強く訴えたい」と述べた。

続いて井上頭一日本出版販売(株)常務取締役は「書店の返品業務の負担を減らし、その力を販売に生かすように働きかけている。その一環として王子流通センターのリニューアル化を進めた結果、書店からの要望に迅速に対応できるようになった。スピードも読者へのサービスの一環ととらえ、今後もそうした整備を進める」と、同社の意気込みを語った。

日本書籍出版協会元理事長・朝倉邦造氏の元氣な乾杯の発声で懇親會は始まった。厳しい環境下で開かれた師走の集會にもかかわらず、各テーブルではにぎやかに情報交換や交流が行われた。

専門委員会だより

● 総務委員会

文部科学省より情報公開の要望があった10項目について、事務局、情報システム委員会と協力しホームページ上に公開すべく準備を進めております。既に4項目については公開が済んでおりますので、会計資料を中心とした残り6項目について公開にむけた検討に入りたいと思います。

また、本年は役員改選期のため会員名簿を作成することになりますが、これについては従来の冊子形式にこだわらずホームページ上への公開など、その方法論についても広く検討し、早急に結論を出したいと考えております。

昨年末の年末会員集會は例年通り100名を超え

るご参加をいただき盛會のうちに終えることができました。本年も当協会発展のため会員各位のますますのお力添えを賜りますようお願いいたします。
(委員長 飯塚 尚彦)

● 著作出版権委員会

いよいよ2007年7月よりこの数年検討されていた、権利制限の拡大を目的とした新しい著作権法が施行されることとなった。すでにご承知のように、今回は特許にかかわる複写と薬事法にかかわる複写の一部が、その対象となった。今後も権利制限拡大を主張する利用者との主張の対立が想定される。

また現在直面している大きな課題として、集約的権利処理機構として日本複写権センター(JRRC)への一本化の問題がある。現在、実質的に3つの処理機構が存在しているが、JRRCの使用料規程の改定を実現することが、絶対必要条件となることは明白である。それによって全ての出版物(雑誌を含む)を一元的に管理できるようになってくる。そのためには、その前に出版界が今の状況(JRRCとJCLSの2本立て)を改善しなければならない。いわゆる出著協を組織変更して、管理団体として変革していかなければならないという方向性が示された。当然、日本書籍出版協会がその大きな役割を果たさなければならないが、この問題に長年真剣に取り組んできた、当自然科学書協会の役割もまた非常に大きい。先に述べた権利制限拡大阻止の議論にも大きくかかわってくるので、2007年もまた会員の皆様のご協力・ご助言をいただきながら検討を重ねていきたい。

(委員長 及川 清)

● 国際委員会

国際委員会では、昨年、The Natural Science Publishers' Association of Japan(英文会員社名簿)を改訂しました。本年は本名簿の普及に努めたいと思います。会員各社に来社する海外出版社の方にも是非お渡しいただければ幸いです。必要な部数を事務局にお申し出ください。まだ、若干在庫があります。
(委員長 松嶋 徹)

● 販売・出展委員会

今年も7月5日(木)～8日(日)、東京ビッグサイト西展示棟で開催の東京国際ブックフェア(TIBF2007)への出展参加を中心に活動を展開します。昨年のTIBFでの当協会の販売実績は、前年並みでした。売り上げ回復のためには、出品書の選定や集客に工夫を凝らす必要があります。たとえば、現在は新刊中心の出品ですが、事前に出展書籍の希望調査を購読者に実施すれば、普段はあまり市場に流通しない書籍、事・辞典類、雑

写真で見る創立60周年記念祝賀会

日時：2006年11月8日
会場：日本出版クラブ会館



挨拶をする志村幸雄理事長



来賓祝辞を述べる
小峰紀雄書協理事長



来賓祝辞を述べる森晃憲
文部科学省学術機関課長



乾杯の発声をする山崎厚男
日本出版取次協会会長



功労者を代表して
謝辞を述べる朝倉邦造氏



功労者を代表して朝倉邦造氏に表彰状授与



平成18年度功労者表彰の方々





創立60周年記念祝賀会における現役員の記念写真



中締めの本郷允彦専務理事



誌、稀少本などを出品・販売することができます。また本年はディスプレイを一新する予定です。これまでの長所を生かしリニューアルするという課題を抱えています。会員各社の一層の積極的な出展参加とご協力をよろしくお願いいたします。

今年の北京国際図書展示会（BIBF2007）は、8月30日（木）から9月3日（月）まで、中国国際展覧センターで開催されます。会員社の昨年の参加実績は、23社169点でした。今年はさらに共同ブースの参加社の増加を期待し、その環境作りに取り組むこともまた新たな課題であろうと思っています。

一方、フランクフルトブックフェアは、出版文化国際交流会の主導で、梓会や大学出版部協会との共同参加という枠組みに大きな変更はないだろうと思います。

当委員会は、ブックフェアを通じて、会員社の出版物を幅広く宣伝するという役割をこなしていますので、協会の認知度をさらに高める方向で活動を展開したいと思います。（委員長 平田 直）

● 情報システム委員会

本委員会では、ホームページ関連・ネットワーク関連など情報インフラの整備を中心としてコンピュータ周りの業務を担当しております。本委員会のメンバー構成も総務・営業・編集と多岐に渡っております。

今年の目標は、ホームページの整備と運営、新出版ネットワークの普及と研究、電子出版へのアプローチ、などです。

ホームページの整備では、協会会報の掲載（広報委員会）、自然科学書データベースの整備（各目録刊行会）、東京国際ブックフェア出展社ならびに書籍の検索（販売・出展委員会）、会員社名簿や収支報告書（総務委員会）、著作・出版物の権利についての見解（著作・著作権委員会）など、他委員会の方々とも連携を取りながら、内容の充実と更新のスピードアップをより一層図りたいと思います。各委員会の皆様のご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

また、各学会や業界関連会社ならびに団体のホームページとの相互リンクも積極的に実施していきたいと思っています。

新出版ネットワークにつきましては、現在加入されている会員社から現状を報告していただき、問題点やメリットを研究しながら、当協会会員各社にお知らせし、普及に努めたいと思います。

電子出版につきましては、雑誌、辞書、ハンドブックの電子化や、教科書などにCD-ROMとの複合、Webとの連携など、今後ますます普及する

であろうと思われます。

ともすれば、勉強会的要素が強い委員会になるかと思いますが、委員の方々の親睦を深めながら情報や意見の交換の場になるような委員会を開催していきたいと思っております。

（委員長 曾根 良介）

● 広報委員会

昨年は、「東京国際ブックフェア特集号」「創立60周年記念特集号」という2つの特集号を発行することができました。とくに、後者は西澤潤一先生や協会OBの方々からのご寄稿もいただき、12頁立てというかつてない充実した特集号になりました。ご協力いただいた多くの方々に、誌面を借りて厚くお礼申し上げます。

今年の会報も、協会の動きや取り組みを会員の皆様にお伝えすることを第一の任務と心得るといえる点は変わりません。その上で、さまざまな学者の方に自然科学書の読書をめぐるエッセイをお寄せいただいたり、販売会社（取次）や書店で自然科学書を扱っている方々に、自然科学書出版に対する提案や苦言をいただいたり、といった企画も継続していきたいと考えています。

なお、会報に対するご要望等がございましたら、最寄りの広報委員までお伝えください。可能な限り誌面に反映させてまいります。

（委員長 宮部 信明）

編集後記

景気の上昇気配が謳われて久しいが、我々専門書業界はその恩恵をなかなか受けられずにいる。技術立国ニッポンの礎を支えてきた自負はあるものの、少子化や理系離れといった現状が、業界の行く先の雲行きを怪しくさせている。劇薬が必要なのだろうか？

さて、そうした会員の気持ちを察したのか、協会創立60周年記念祝賀会の記念品は折りたたみ傘であった。パッと見コンパクトでおしゃれな優男系の傘とのイメージを持たれた方も多かろう。なるほど、独老舗メーカーのもので、グッドデザイン賞をとるなどかなりのイケメン。しかも、主骨がグラスファイバー製のため、しなりが効きやすく風に強いという特徴を持つ見かけにそぐわぬ実力派。出張の際に遭遇した暴風雨で、ものは試しと早速使用した。従来の折りたたみ傘なら、間違いないお手上げの傘でも問題なし。濡れ鼠の諸氏を尻目に意気揚々と空港へ向かった私に待っていたのは、なんと欠航のお知らせであった。（O.S）

第55期／第56期広報委員

<担当常務理事> 南條 光章（共立出版）

<委員長> 宮部 信明（岩波書店）

<副委員長> 後藤 武（彰国社）

森田 猛（緑書房）

<委員> 井上昭彦（朝倉書店）・池田富士太（科学新聞社）・長 滋彦（技報堂出版）・柏原徹二（南江堂）・小沼正博（恒星社厚生閣）・新谷滋記（工業調査会）・田中久米四郎（電気書院）・三宅恒太郎（頼母社）・安原仁（家の光協会）・柳澤則雄（永井書店）